

春風秋霜 1月号

令和4年1月6日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 新年を迎えて

新年、明けましておめでとうございます。今年がこれまでとは違った、様々なことに挑戦できる1年になってほしいと願っています。

この2年間でコロナウイルスについて様々なことが分かってきました。留意しなければならないことをきちんと守れば、ほとんどの教育活動が可能です。新しいオミクロン株の影響は不明ですし、感染の第6波も心配されますが、これまでの学校での対応は、校内での感染が一例もないことで、間違っていなかったと証明済みです。

今後、各学校では来年度に向けた教育課程編成作業が続くと思います。充実した協議と積極的な提案をお願いします。新年が子供たちにとって充実した1年であって欲しいと願っています。

2 教育課程の編成にあたって

令和4年度の教育方針は、11月の教育委員会定例会で協議し、12月の定例会で決まりました。学校教育として重視することは、「豊かな心の育成」「夢育・地育」「小中一貫教育」などです。これらの内容の多くは、平成28年9月に提出された「島田市立小学校及び中学校の在り方検討会提言書」を受けています。

提言書の第3章では、今後学校教育に予想される「社会に開かれた教育課程」「アクティブ・ラーニング」「カリキュラム・マネジメント」「コミュニティー・スクール」「チーム学校」「小中一貫教育」等の課題に対し、核を形成して対応していくことと記載されています。

近年、学校教育に求められるものや社会の変化は目まぐるしいものがあり、多忙化や負担感が心配されます。それを予想し、提言書では「核を形成して対応する」ことにより、課題への取組を求めています。その核となりうるものが「夢育・地育」だと考えています。教育方針を教職員が共有し、知識や技能だけでなく、これからの変化の激しい社会においても、子供たちがたくましく生き抜いていく力を育てて欲しいと願っています。

3 12月議会から

学校教育に関わる一般質問は、藤本議員からICT教育について、村田議員から学区の選択制とICT教育について、平松議員からはトイレの洋式化とICT教育についてでした。

来年度における教師用端末及び故障機への対応は、児童生徒数の減少による予備機で対応し、ICT支援員については、機種管理と指導を一体的にできる業者に複数年の委託をする予定と答えています。デジタルシティズンシップ教育も開始され、学校間格差については全体的な底上げだけでなく、可能性を追求することも大切にしていると答えています。

学校トイレの洋式化は、今後改築される学校においては洋式化100%とすること、学区の選択制については、地域の総意があれば検討すると答えています。

補正予算では、WiFi環境のない家庭に対し、モバイルWiFiルーターの貸し出しをするための予算が可決されました。

4 学校便りから

島田第五小学校と島田第二中学校の学校便り11月号には、東京大学薬学部教授の池谷裕

二さんのネズミを使った研究が紹介されていました。島五小では、いろいろな失敗を重ねたネズミほど最終的な学習の成績がよかったことから、「失敗するたびにじっくり考えること」や「めげない心」の重要性を伝えています。

島二中では、「じっくり考えることの重視」と共に「睡眠の効果」や「覚えるより試せ」の有効性が書かれていました。両校とも、池谷教授の研究という科学的なエビデンスを基にしているので、子供だけでなく保護者にも伝わるものが多いと思います。

「発信したこと」と「伝わったこと」は違います。いかに伝わるように工夫するかが求められます。様々な保護者が居るので、科学的なエビデンスがすべてではありませんが、多様なアプローチは大切だと思います。

5 人権ポスター展を見て

本年度の人権ポスターは素晴らしい作品が多く、受賞した高校生や中学生の作品はそのアイデアだけでなく表現力もさすがと思わせるものがありました。全体的な感想としては、いじめを題材にするものも多く、暗いイメージの作品が多いものの、明るい未来へのメッセージとして表現されている作品も増えていると思いました。豊かな発想で挑戦する人が増えることはありがたいと思いました。



肘かけ椅子

磯貝 隆啓 教育委員

「河川敷で走っています」

毎日 4km ほど走っています。皆様の中にも走っている方がたくさんいらっしゃると思います。30 歳代から始めて週 1, 2 回でしたが、最近 5 年ほどは毎日となりました。40 歳代の頃まではスピードを上げることに興味があり、他のランナーに抜かれると頭に血が昇り抜き返すこともありました。最近はずがに馬鹿馬鹿しいと思うようになり、また、抜き返す走力もなくなりました。今はゆっくりと走り、その日一日の体調を確認し、わが身を反省する時間となっています。走るというよりは座禅に近いですね。

50 歳代のサラリーマン時代は無謀にも毎晩 20km を目指して 3 日目に挫折するという事もありました。昭和の根性物語を地で行く恥ずかしい話です。走るときの敵は暑さと寒さです。真夏にはペットボトルを持って走ることもあり、向かい風になるとホッとします。冬はこの反対で大井川河川敷の北風をまともに受けると「今日は危ない！」と身の危険を感じることもあります。こんな時は 1 ~ 2 km 走って自己満足しています。夏には青大将が出てきてびっくりすることがあります。毎月 1 回ほどですが。発見が遅れ踏みそうになったことや立ちすくんだ女性を誘導したこともあります。これまで見た最大の青大将は 2 m 以上あり、思わず立派で見とれました。

ところで、毎日走っていると色々なスタイルのランナーがいることがわかります。体を傾けて走る人、ニコニコしながら走る人、自分の足を見ながら走る人、腕の振りを前後ではなく左右に振る人、片手だけ振って走る人、バランスが良く見事できれいな走り方の人など。遠くからでもすぐにわかりますから、あの人今日も走っているなど思ったり、今日はあの人来てないなど感じたりします。当たり前ですが皆さん一人一人みんな個性がありますね。でも四季を通じて河川敷を走ることが快感であることに変わりはありません。西の空に沈みゆく大きな夕陽と周りの山並みや富士山、大井川を見ながら走る時、島田に住んでいる幸せを感じる瞬間です。